

和 阪 京 第 3 1 号
平成20年10月16日

国土交通省道路局長 様

和歌山市長 大 橋 建 一



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼あったことについて、別紙
のとおり回答します。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

和歌山県 和歌山市

1. 平成20年5月に閣議決定された道路特定財源等に関する基本方針に基づく特定財源の一般財源化につきましては、市町村道路等の地方道路の整備が国道に比べ大幅に遅れていることや、地方道路の整備等に多くの一般財源や地方債で補っていること等を勘案され、国庫補助金分や地方道路整備臨時交付金分等を含めた十分な地方税財源の総額を確保され、地方の自由度の拡大を図る、新たな取組が必要である。
2. 和歌山市の社会基盤整備が遅れていることを鑑み、地域間格差の是正や市民が安全で安心できる、生活環境等の整備促進を重点的に図るにつき、次の事項について適切な財源配分が講じられるよう強く要望する。
 - ・地方では基幹道路から生活道路まで体系的な道路整備が必要であり、その実施には多額の地方負担が生じることから、国の補助制度の拡充と地方負担額に対する財源措置を講ずるとともに、少なくとも地方道路整備交付金や地方道路譲与税など従来から地方に充てられていた道路整備の財源については、これまで以上に確保されたい。
 - ・計画的・効率的な維持管理による橋りょう等の道路施設の長寿命化を図るため、点検業務や小規模補修などを含め必要となる費用について特段の税財源措置を講じられたい。
 - ・自転車の安全な走行環境の整備や駐輪場の確保など環境に配慮した道づくりの推進に資する支援策について特段の措置を講じられたい。
 - ・バリアフリー歩行空間の確保や、交通事故危険箇所の解消などを推進するため、段差がなく幅広い歩道の整備や交差点改良など、交通安全施設等整備事業に係る確実な税財源措置を講じられたい。
 - ・自動車道の料金値下げにより、地域産業や観光の振興など、地域活性化を図る制度を構築されたい。
 - ・道路整備の遅れは生活・防災・産業に大きな影響を及ぼすだけでなく重要なライフラインの整備を積極的に講じられたい。
 - ・都市計画街路事業や生活道路の整備を積極的に講じられたい。
 - ・第二阪和国道・和歌山岬道路に和歌山大学付近で政策ランプの追加と平成27年までに全線供用開始を図るため、十分な財源を確保されたい。
 - ・和歌山県域における京奈和自動車道を平成27年までに全線供用開始を図るため、十分な財源を確保されたい。

○現状

- (1) 国道26号は、片側一車線の生活・産業道路として利用され、朝夕の通勤・通学及び、昼夜は大型産業車の通行で、地域住民の日常生活に支障が生じている。また、府県境については山間部を通行しており、交通事故の多発や気象条件等による通行規制区間に指定されている。
- (2) 和歌山県北部地域を結ぶ国道24号は、生活・産業道路として利用され、朝夕の通勤時間帯や昼夜においても慢性的な交通渋滞が発生しており、沿線住民の日常生活や地域経済・産業に支障が生じている。
- (3) 当市の道路網は南北に比べ東西幹線の整備が遅れており、交通網の機能を果たしていないのが現状である。
またこれにより、中心市街地に対して流入出する交通が分散できないため、狭小な道路であっても抜け道となり、交通量が増大し生活環境の悪化をきたしている。

○課題

- (1) 国道26号のバイパスとして、第二阪和国道を地域高規格道路として早期整備を図り、供用開始することにより生活道路、産業道路の区分けがおこなえ、地域の経済・産業の活性化や、防災・医療面からも重要であり、阪南市や岬町から年々増加している救急搬送に対する所要時間の短縮が期待されており、早期開通が図れるかが問題である。
- (2) 国道24号のバイパスである、京奈和自動車道を高規格幹線道路として早期整備を図り、供用開始することにより地域経済の活性化や福祉・医療面からも重要である。
また、和歌山市は救急救命医療に関して受け入れ可能な高次医療施設が多く、沿線の各自治体からも期待されており、早期開通が図れるかが問題である。
- (3) 都市計画道路と生活道路の連携整備がどこまで出来るか。
都市計画道路の早期整備が滞っている原因の一つに一事業の長期化があり、住民意識もさることながら財政難による年間事業量の縮小も侮れない。
特定財源問題による交付金事業の縮小等は、地方の道路行政に大きな障害となる。今後の動静が心配である。

和歌山市域は中心部を流れる紀の川により南北に分断され、北部4割(約15万1千人)、南部6割(約22万人)の人口配置となっている。将来予測される東南海・南海地震の備えとして、紀の川渡河部に架る橋梁の耐震強化を図ることによって、災害時の人的交流や物流輸送の確立が図られる。

モータリゼーションが進む現在において、和歌山市内全般の道路整備の遅れが慢性的な交通渋滞を引き起し、交通の分散化を図る上でも本市の街路事業の外環状道路構想として、西脇山口線、松島本渡線、南港山東線、新和歌浦中之島紀三井寺線の整備と、南部地域の内環状道路として、新和歌浦中之島紀三井寺線、湊神前線の早期整備をすることにより、市民生活での幹線道路網が確立される。

北部地域では、阪和自動車道(仮称)和歌山北ICを設置することにより、関西大環状道路の一翼である京奈和自動車道への接続や、気象条件等による通行規制を受けない、第二阪和国道・和歌山岬道路の早期整備により地域間交流や防災・医療、産業面からも重要となってくる。

また和歌山市は、関西大環状道路、関西中央環状道路、大阪湾環状道路の関西3環状網の結節点に位置し、これらの構想計画の実現を図る観点からも、京奈和自動車道を和歌山JCTから第二阪和国道・和歌山岬道路まで西進させることにより、大阪湾環状道路への接続を図る必要がある。そのことによって、関西圏が初めて一つになり将来、紀淡連絡道路の実現によって四国方面等の広域的なネットワークが構築され、このことは現在「国際貨物ハブ空港」を目指している関西国際空港の利用増による活性化が図られるなど、経済・産業面での効果は多大である。一つに纏まった広域圏をヒンターランドとしてニュービジネス分野での飛躍が期待でき、また将来予測される東南海・南海地震等による、災害時の救援物資輸送や地域間交流、観光面等の観点からも、また太平洋新国土軸構想の位置付けからも四国方面等の広域的なネットワーク道路として、京奈和自動車道や紀淡連絡道路(陸上ルート)等がその要である。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

和歌山県 和歌山市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
1) 災害に強い都市 基盤整備	1) 橋りょう等の耐震強化工事 避難路や緊急輸送道路に架かる橋りょうの耐震工 事	1) 災害時の救援物資輸送や人的交流の確 立	
2) 安全で快適な基 幹道路や生活道 路の整備	2) インターチェンジの新設や接続する基幹道路整 備、阪和自動車道(仮称)和歌山北インターチェン ジの設置、 市駅小倉線の整備、南港山東線の整備	2) 渋滞緩和と交通事故の軽減	
3) 人に優しいみち づくり	3) バリアフリー歩行空間の確保	3) 高齢者や障害者の社会活動への参加や 外出機会の増加	
4) 環境に配慮した みちづくり	4) 自転車の安全な走行環境の整備 雄湊西浜線道路改良工事	4) 大気汚染や騒音等の減少	
5) 地域活力の向 上	5) 地方の競争力、成長力の確保及び、港湾からIC 等へのアクセス道路の改善。	5) 特定重要港湾の和歌山本港区は、産業 港湾として花王・和歌山工場、本州化 学、スガイ化学、国際コンテナ便としてコ ンテナターミナルが立地しており、和歌 山臨港線から阪和自動車道と和歌山ICへ の物流強化を図るためにも、国際標準コ ンテナ車やISOタンクコンテナ車の通行 可能な交通体系の充実を図ることで、各 地への工業製品等の輸送が容易とな る。	